



島根大学ヒッグス・初期宇宙プロジェクトセンター講演会 宇宙の謎と素粒子

日時：2015年12月19日(土) 14:00~15:30

ところ：島根大学総合理工学部1号館2階21講義室
(入場無料・申し込み不要)

講師：小林 富雄 (東京大学・名誉教授)

【講演内容】

2012年、ジュネーブのCERN研究所で、「神の素粒子」と呼ばれることもあるヒッグス粒子が発見されました。それは、理論的にその存在が指摘されてから48年後のことでした。

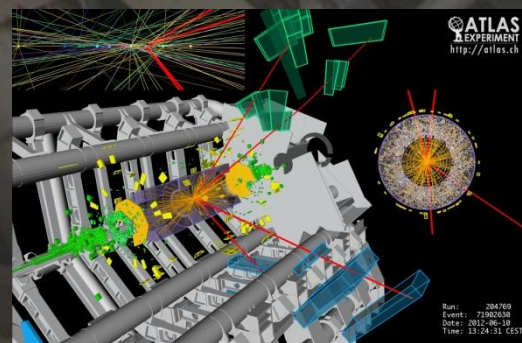
この粒子は、CERNの陽子陽子コライダーLHCで人工的に作り出されました。LHCが生み出す7兆電子ボルトという、人類が作り出した最高エネルギーは、ビッグバンの瞬間から1ピコ秒経った時の宇宙の超高温状態に相当するものです。宇宙のごく初期に、ヒッグス粒子がどのような働きをして、宇宙が出来上がっていったのか、今解明されようとしています。



【講演スケジュール】

14:00:

開会挨拶・はじめに



ATLAS実験でとらえたヒッグス粒子事象

写真提供：CERN アトラス実験グループ